

教師ノート

日付	2022年 6月 5日
単元	ペンテコステ
テーマ	聖霊を受けなさい
タイトル	ステパノ～赦す力
テキスト	使徒6:3、5、10-15、7:54-60
参照箇所	暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい) エペソ4:32
AG 日曜学校教案参照箇所	小下 2 卷(4)2 課、中学 3 卷(1)1 課
□導入	「あのことだけは、赦せない」ことってありますよね。「あやまったら赦してあげよう」と思うこともあるよね。でも、赦せない心を持ったままだと苦しいよね。どうしたら人を赦すことができるのでしょうか？
□ポイント1 ステパノは、聖霊に満たされた人でした(使徒6:3、5)	リーダーを助ける人ってどんな人が良いと思いますか？教会が誕生して 12 使徒を助ける働きをするために、信徒の中から 7 人が選ばれました。たくさんいる信徒の中で、その 7 人を選ぶ基準として、御霊と知恵に満ちた人、そしてみんなからの評判が良い人、しっかりとした信仰を持っている人が選ばれました。その中にステパノと呼ばれる人がいました。
* ここでは 7 人が選ばれた経緯については深く触れていません。聖霊に満たされている人は、人を赦す力が与えられるという主題に重きをおきたいからです。しかし教師は 6-7 章の背景や様子を知るために、聖書を熟読しておきましょう。	
□ポイント2 ステパノは、御使いのような顔をしていました(6:10-15)	ステパノは聖霊によってイエス様のことを人々に語りました。しかし人々は、偽りを言う人々を証人として立てて、ステパノを襲い、議会に引っ張ってきました。そして人々はステパノが言ってもいないことを言ったと話し出したのです。そこにいた人々はステパノのことをみんなが悪く言うので、きっとステパノは怒ったり悲しんだりしているだろうと思ってステパノの方を見つめました。しかし、なんと、人々がステパノの顔を見ると、まるで御使いの顔のようにおだやかな聖なる顔をしていたのです。
☞ 自分のことを悪く言われることは、とっても嫌なことだと思います。しかもみんなの前で嘘までつかれています。それでもステパノは、おだやかに、自分が語る番を待ちながら、全てを神様にゆだねていました。そこにいる人々が驚くほどの様子でした。この話しを聞く子どもたちも同じ驚きを持つように、この場面を語りたいですね。「聖霊に満たされるって、こんなにすごいことなんだ」という驚きが伝わるように、子どもたちに語る時に聖霊が働いて下さるように祈って備えましょう。聖書の中でも、感動を覚えずにはおれないシーンの1つです。何の例話もいらないでしょう。	
□ポイント3 ステパノは、人々を赦しながら殉教しました(7:54-60)	ステパノは人々に聖書のメッセージを語りましたが、それを聞いていた人々は自分のことを悪く言われたように思い、はらわたが煮えくりかえるぐらいに怒りました。しかし聖霊に満たされたステパノは、天におられるイエス様を信仰によって見つめ、「イエス様は神の右に立っておられます」と言いました。それを

聞いた人々は、大声で叫びながらステパノに殺到し、町の外に追い出して石を投げ始めました。無実なのに石打ちの刑にあいながら、それでもステパノは「主よ。この罪を彼らに負わせないでください」と石を投げつけている人々の罪の赦しを祈りながら、殉教していきました。

☞ステパノの祈りの言葉は、イエス様が十字架の上で祈られた祈りに通じています。「主イエスよ。私の霊をお受けください」(7:59)は、「父よ、わが霊を御手にゆだねます」(ルカ 23:46)。「主よ。この罪を彼らに負わせないでください」(7:60)は、「父よ、彼らをおゆるしてください」(ルカ 23:34)。イエス様を信じて聖霊に満たされている人は、キリストの心を心とし、キリストに似る者とならせていただけるのでしょうか。「赦す」ということも、聖霊の力を受けなければ本来的にはできないものでしょう。

☞殉教とは、イエス様を信じる信仰のゆえに命を失ったとみなされる死のことです。

□結論 聖霊に満たされる時、人々を赦す力が与えられます

ステパノが素晴らしい人だから、自分のことを悪く言う人々を赦せたわけではありません。聖霊がステパノに罪の赦しを祈る力を与えていたのです。「いや私にはあのことはゆるせない」と思うことがあるかもしれません。そのことこそ、人間の力ではなく、聖霊の力が必要なところではあります。聖霊は、人々を赦すというイエス様の心を与えてくれます。

□適用（聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう）

悪口を言われたら、言い返したくなります。意地悪をされたら、仕返しをしたくなります。「相手があやまったらゆるしてやろう」と思います。でも、相手があやまらなかったとしても、その人を赦す力を聖霊は与えてくれるのです。もちろん間違っていることは間違っていると言うことは必要です。でも赦すことも忘れてはいけません。イエス様も私たちが悔い改める前に、罪を赦してくれました。愛するよりも先に愛してくれました。そんなイエス様を見つめながら、聖霊によって赦す力を頂きましょう。今、「あのことだけは赦せない」と思っていることを、十字架のイエス様を思いながら一緒に祈りましょう。聖霊なる神様は、赦す力を与えてくれます。

子どもたちの心の深みに触れることになるかもしれません。赦すことに対して、大きな傷を受けていることなどは、感情的に肯定することができない場合もあると思います。そういう深いトラウマなどを抱えている子どもたちがいれば、あせらせる必要はありません。まずはその痛みや傷をイエス様が癒してくださるということを伝えましょう。そして気持ちよく赦すことができなくても、憎むことをやめることの決心に導くことが大切です。個々人の状況を鑑みてケアをしていきましょう。